

遙かなムーンライト

佐竹紫円

夢ならばまだ醒めないで 輪郭は黒でなくミッドナイトブルーで
真夜中を支配するのは闇でなくどこまでも深い水底の色
ここだけがあなたに会える場所だからラベンダーのサシェを忍ばせて
眠りから醒めたくなくて繰り返すアイネ・クライネ・ナハトムジーク
夜を漂う風からはこれまでの日々を灯したかすかな香り
吐き出して吐き出してからっぽになれば月の光を肺腑に満たす
夜に溺れる 想い出と選べない方の未来が満ちているから
まだ知らぬ遠くの街の夜景にもあなたはいないことは知っている
月光環 ひかりが進む道すじはいつもまっすぐとは限らない
どこまでも静寂が広がるのだろう決して届かぬ賢者の海は
月までの片道をゆく快速の切符は今も手に入らない
もうずっと前の新月に拾った星の金貨をこの手に握る
空想を生きてゆくときかたわらに白いペガサスを従えて
触れたならこの身を大理石の像に変えてくれるのだろうか、月は
辿り着けない場所の方が多いからだじっと待つ深夜快速
星々を枕木として目に見えぬレールが空に敷かれて きつと
宙空に踏み出してみる ペガサスの肩に手を載せ夢の軽さで
やがて着く死という駅は終着点ではなくそれもまた通過点
ならばまたどこかであなたに会うでしょう、月の光をこの身に受けて
遠くからかすかな汽笛、少しずつすこしずつ近付く走行音